

平成25年度  
若手消防団員意見交換会  
報告書



兵庫県消防協会マスコット「消太くん」

兵庫県消防協会

# はじめに

兵庫県消防協会では、毎年各地区において「若手消防団員意見交換会」を実施しています。

これは、実際に現場で活動している若手消防団員の皆様から貴重な意見をお聞きし、今後の協会の取り組みに役立てていくため、平成15年度より開催しており、この度11回目を迎えます。

消防団員は、かつては全国に200万人存在しておりましたが、今や90万人を割っているのが現状です。近年様々な自然災害が発生する中、地域と密接に関係している消防団員の役割はますます大きなものとなっておりますが、消防団員のサラリーマン化や高齢化などによる地域防災力の低下が懸念されており、消防団員の確保は大きな課題となっております。

こうした中、平成25年12月に「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」が成立しました。これは、消防団を地域防災の中核として位置付けた、初めての法律です。消防団の強化に向けた施策を推進するとともに、住民、地方公共団体、国等、様々な主体が役割分担しつつ、相互に連携して、地域防災力の充実強化を図るものです。

この意見交換会での意見をご覧いただき、消防団の方々だけでなく、その他消防関係者の皆様にも今後の消防団運営や活動の参考としていただくことで、地域防災力の強化の一助としていただければ幸いです。

なお本報告書は、類似意見の割愛及び文言の修正等をさせていただいておりますので、ご了承下さい。

最後になりましたが、県内各地区での本意見交換会開催にご尽力下さいました、支部事務局の皆様へ厚くお礼申し上げますとともに、ご参加いただいた若手消防団員の皆様の今後のご活躍をお祈りいたします。

## 目 次

1	入団動機について	1
2	現在の活動状況について	2
3	災害現場で恐ろしかったこと	3
4	消防団の活性化について	4
5	消防団活動をして良かったと感じること	5
6	消防団活動について 今後改善すべきだと感じること	6
7	勤務先や家族の消防団活動に対する 理解や対応について	7
8	消防団員確保対策について	9
9	有事の際の人員確保について	11

10	団員の確保対策としての	
	女性消防団員登用について	11
11	女性消防団員の活動事例	12
12	女性消防団員としての今後の活動	12
13	ポンプ操法大会について	14
14	消防団幹部との関係	15
15	団員報酬について	16
16	その他	17

## 平成25年度若手消防団員意見交換会報告書

### ①入団動機について

- ・地域の行事に参加した際に勧誘された。
- ・以前住んでいたところで消防関係の仕事をしていたことから、引っ越しても消防に関わりたいと考え入団した。
- ・街中で人が倒れた現場に遭遇したが何も出来ず、何か出来ることはないかと思入団した。
- ・家族が消防団員だったこと。
- ・以前は婦人消防隊に入隊していたが、婦人消防隊が解消されたので消防団に入団した。
- ・知り合いからの勧誘があったから。
- ・消防士を目指していたが採用されなかった。その後女性消防団員を募集していることを知り、入団した。
- ・地域貢献をしたいとの思いから入団した。
- ・救命講習を受講したのがきっかけで入団した。
- ・退団される方と入れ替わりで入団して欲しいと頼まれた。
- ・父親と入れ替わりで入団した。
- ・職場の先輩から無理矢理入団させられた。
- ・自治会長からの推薦で入団した。
- ・地域の付き合いの一環として入団した。
- ・住んでいる場所の環境が、消防団に入団して当たり前の環境であった。
- ・役場に就職し、成り行きで入団した。
- ・お世話になっている方からの勧誘で、断ることができず、入団した。

- ・もともとは自警団に入っていたが、大きな災害をきっかけに、消防団に入団した。
- ・村の青年団の延長のような感覚で入団した。



【神戸地区意見交換会風景】

## ②現在の活動状況について

- ・分団での訓練がメインになっている。体育祭や防災訓練など地域の行事に参加して、地域の方々と交流している。仕事の都合で集まりにくい状況もあるが、なんとか都合のつく団員で集まって活動しているのが現状である。
- ・月に1回車両点検や訓練を行い、地域の行事での力仕事は消防団員の仕事になっている。
- ・5年に1回、消火器の詰め替えに各家庭を回っている。(詰め替え作業は業者が実施)
- ・年に2回非常招集を実施して、放水訓練を行っている。
- ・山火事の訓練をしている。
- ・婦人会の方に消火栓を使った放水の仕方を教えている。
- ・ポンプ車や小型可搬ポンプが無いので、消火栓を管理している。消火栓ボツ

クスの器具盗難等が無い点検したり、筒先等のパッキンの点検も行っている。

- ・ 月1回の無線テストをおこなっている。
- ・ 2年に1回団員の家族も参加して楽しめるような行事を企画している。
- ・ 分団持ち回りで、地区のパトロールを行い、地域の行事への参加も行っている。
- ・ 月に2回は、ポンプ点検を行い、放水している。川幅が狭いこともあり、水位が上がると、招集をかけて見回っている。
- ・ 部を4つに分けて、車両の点検、操作方法などを訓練している。
- ・ 機関点検、畔焼きの警戒、老人ホームや中学校等との合同訓練。
- ・ 災害時、地域の高齢者などの避難誘導。
- ・ 火災予防活動として、独居の方の家を訪問する。



【神戸地区意見交換会風景】

### ③災害現場で恐ろしかったこと

- ・ 市場での火災は、長時間の消火活動で大変であった。
- ・ 危険物や化学物質が保管してある2階建ての建物火災の際、放水の風圧で炎が大きくなり、放水の難しさを実感した。

- ・火災現場での水圧で発生する風の勢いを火災現場で理解しながら放水するのは難しい。

#### ④消防団の活性化について

- ・高齢化が進み、団員歴の長い方ばかりで、現場活動が出来る人が限られている。
- ・地域によっては若手の入団が難しいところがある。
- ・分団が無い新興住宅街では、大規模災害への対応が不安である。
- ・受令機を個人購入して、常に災害情報を気に掛けている団員もいる。
- ・写真が趣味ということもあり、記録として団の写真を撮っている。消防屯所の掲示板に張り出して、消防団にどのような人がいて、どのような活動をしているのかが良く分かるようにしている。中が見える組織にしたい。
- ・飲み会などを定期的で開催し、団員同士のコミュニケーションを図っている。
- ・団員の家族も参加できる行事を企画し、家族に消防団に対する理解を深めてもらっている。
- ・退団されたOBの方を中心に任意的な組織を作っている。



【中播磨地区意見交換会風景】



## ⑤消防団活動をして良かったと感じること

- ・ 地域での知り合いが増えた。
- ・ 地域の方々とのコミュニケーションが増えた。
- ・ 年代の違う人たちと顔見知りになることができた。
- ・ 地域の役に立っていると感じた。
- ・ 島外から移住してきて知り合いが少なかったので入団したことにより地域にとけこみやすくなった。
- ・ 常備消防との合同訓練をさせてもらったが、実際の火災現場を想定し、援護注水方法や排煙方法などとても有意義な訓練だった。
- ・ 防火水槽の取水訓練への参加はとても役立つ。
- ・ 水防工法訓練のおかげで、大雨の時、とても役に立った。
- ・ 研修で学んだ心肺蘇生法を、実践することができた。
- ・ 民家火災で消火活動を行った際、地域の方々から感謝の気持ちを伝えられ、入団して良かったと思った。



【阪神地区意見交換会風景】

## ⑥消防団活動について今後改善すべきだと感じること

- ・所属分団から職場が遠いため、火災等が発声した場合、現場に間に合わない。
- ・幽霊団員が多く、特定の団員に負担がかかる。
- ・仕事が優先では困るので、誰でも入団させられない。
- ・入退団は、4月であるため、初出式は1月ではなく4月に実施しても良いのではないか。寒い時期に実施することで、団員の負担になっていると思う。
- ・役所で作っている分団に所属している。火災時は出動できるが、台風などの時は公務と重なるため活動できない。
- ・行方不明者の捜索など、各団がお互い協力する体制が必要。
- ・班の運営が自治会であるため、自治会長さんの理解がなければ運営しにくい。
- ・消火栓格納箱の中身が盗まれていて、火事に間に合わなかったことがあったので、定期的な点検が必要であると感じた。
- ・水出しが出来ない団員がいるので、定期的な訓練が必要である。
- ・消防団員のサラリーマン化により、災害時の活動が困難である。
- ・地元で仕事をしている者と、サラリーマンでは出動回数が違い、不公平感がある。
- ・火災の際に集まれる人数に不安があるため、OBの方々に出動していただくことを認めてもらいたい。
- ・車両の機関員に対し、ポンプメーカーから講習を受けられる体制を取りたい。また、火災現場には誰が行くか分からないので、誰もがポンプを使えるようにしておきたい。
- ・分団の演習（連携訓練）をよくやっているが、消防隊との連携は、分団長が取っていて、分団長は火事場で一人走り回っている状況である。
- ・災害の少ない地域に住んでいるので、大きな災害が起こった際、どのように

活動すればよいのか、正直分からない。

- ・ 新入団員だけではなく、現在活動している団員のフォローも大切。達成感や充実感を生むような組織作りや研修を行っていくべき。



【阪神地区意見交換会風景】

#### ⑦勤務先や家族の消防団活動に対する理解や対応について

- ・ 家族の理解が得られにくい現状がある。
- ・ 地震などの時、家族や職場も気になり、どれを優先すれば良いか悩む。
- ・ 操法大会が、地域の祭と時期が重なるため、毎日、祭か操法の練習に出なければならないので、負担が大きく、家族の理解を得にくい。
- ・ 家族ぐるみで懇親会を行ったところ、好評であった。
- ・ 地元自治会や分団独自で、出勤回数（出席率）に応じて表彰等を行っている。
- ・ 仕事で訓練に参加できない。訓練は会社の理解が得にくい。
- ・ 仕事を休みにくい状況。会社に元消防団員の方もおられるが、その方からの理解も得られない。
- ・ 日給なので、仕事を休むと給料が出ず、生活できないので仕事を休むことが

出来ない。

- ・自分の職場は、消防団活動に理解があるので、いつでも自分の仕事の都合がつけば現場に出させてもらえる環境においてもらっているが、業務上どうしても出られない時もあるので、緊急時にすぐ対応出来ない時もある。
- ・出勤証明書を発行してもらえたら、会社も対応してくれると思う。
- ・出勤証明書の効力がどれくらいあるのか分からない。
- ・防災無線（メール）の目標物を詳しく（細かく）してほしい。
- ・AT 限定免許なので、消防車両を運転できない団員がいる。
- ・自治会との合同訓練の場を設けるべき。
- ・仕事柄、携帯電話をロッカーに置いているので、事業所にも防災行政無線の受信機を設置して欲しい。
- ・消防団活動に非協力的な事業所に対して、行政から呼びかけて欲しい。



【東播磨地区意見交換会風景】

## ⑧消防団員確保対策について

- ・ 操法大会の年には、小学校の運動会で操法演技を披露し、消防団のPRを行っている。
- ・ 消防団は良いイメージが無く、地区の方々にもお願いしても腰が重くて団員確保までいかない。
- ・ 機能別消防団員の登用。
- ・ イメージだけで決めつけるのではなく、一歩踏み出して欲しい。地域は皆で助け合わないと一人では生きていけないので、助け合いの精神を持って地域の皆さんに協力していただけるように働きかけたい。
- ・ イメージアップという訳ではないが、祭りなどで盛り上がるために揃いのTシャツを作ったり、祭り等で帰省している若者に声を掛けて楽しく接すると、職場は遠いが入団したいという若者が出て来た。
- ・ 消防団活動を班単位で行っていたが、これからは合併しないと、活動していけない状況だと思う。
- ・ 退団する人が新入団員を入れるルールにしている。
- ・ 夏祭りや秋祭りなどで、子ども達を消防車に乗せてあげ、「大きくなったら消防団に入ってね。」と声かけをしている。
- ・ 私たちの地区では、団員のなり手が多いため、団員確保について考えたことは無い。
- ・ 祭りなどで、若い方に声をかけている。
- ・ 高校生くらいの頃から目をつけておき、まず親から説得して入団への理解を求めている。
- ・ 勧誘して、本人の承諾を得ても、親に断られてしまう。
- ・ 自治会長名で回覧板を回して入団を呼びかけている。

- ・新入団員のために、礼式以外のポンプや筒先などの器具の使い方や火災時の行動についての研修が必要である。
- ・団員数を増やすより、活動できる団員を増やす方が良いと思う。
- ・団員確保も大切だが、現団員の維持が難しくなっている。
- ・地域のメディアに普段の活動を取りあげてもらうことも大切。
- ・イベント等への積極的な参加。
- ・退団した60代で元気な方を団員として再任用するような制度があっても良いと思う。
- ・応急手当普及員の資格など取れるということをアピールしてはどうか。
- ・まず家族の理解が必要である。
- ・紹介で入団する人は、ほとんど訓練に参加しない。自ら進んで入団してくる人材を求めなければならない。
- ・若者が住みやすい町づくり。仕事のある町づくり。



【中播磨地区意見交換会風景】

### ⑨有事の際の人員確保について

- ・ 地元が職場ではないので、平日昼間の出勤が難しい現状。
- ・ 火災出勤時に人数が揃うまで時間を要するため出勤が遅れる。
- ・ 職場の理解が必要である。消防団協力事業所制度というものを活用していきたい。

### ⑩団員の確保対策としての女性消防団員登用について

- ・ 出初式や操法大会で女性消防団員を見かけるが、特に女性だから、男性だからという事は無く、浮いているようにも見受けられないので、積極的に入団していただけたら良いと思う。
- ・ 村には年配の女性しかいないので、あまり考えられない。
- ・ 他市町からは女性消防団員の入団について耳にするが、自分の所属する消防団に入団してもらえるかどうかは分からない。
- ・ 女性消防団員の登用は、良い意見だと思うが、活動等を考えると現実的では無いと思う。
- ・ 男性と視点が違うので良いことだと思うが、同じ分団で活動していけるかどうかは、疑問がある。



【北播磨地区意見交換会風景】



### ⑪女性消防団員の活動事例

- ・ 予防課とともに広報活動、地域の自治会の防災教室などを行っている。
- ・ パネルシアターを披露している。
- ・ 消火器の使用方法や煙からの避難方法など体験型で指導している。指導方法については、講師の先生をお招きしたり、ボーイスカウトで活動している団員からの発案などから考えている。
- ・ 救急講習の指導を行っている。
- ・ 会議や研修会への参加。
- ・ 寸劇による広報活動を行っている。
- ・ 火災現場での雑踏整理を行っている。



【北播磨地区意見交換会風景】

### ⑫女性消防団員としての今後の活動

- ・ 子ども達を対象とした防火教室を企画中。
- ・ 紙芝居を作成して、児童館等へ火災予防広報を行う予定。
- ・ 女性消防団員活性化大会や日消の幹部候補中央特別研修に参加して刺激を受



けた。女性としてではなく消防団員として、男性と同じような活動を行いたい。

- ・大規模災害時等は、家族への対応、職場からの要請等が優先順位が高くなり、消防団活動は、後手に回ると思うので、災害対応より広報活動が中心となっていくのではないかと思う。
- ・女性消防団員の意見を言える機会が少ない。女性消防団員としての活動を消防署や消防団がどのように思っているのか分からない。



【西播磨地区意見交換会風景】



【西播磨地区意見交換会風景】

### ⑬ポンプ操法大会について

- ・ 操法大会を4年に1回や隔年に減らせば、団員の負担も減るし、それが原因で入団を敬遠している人も入団してくれるのではないか。
- ・ 新入団員がいないので、同じ団員が何回も出場しなければならない。年齢的にも高齢になると身体がきつい。
- ・ 操法の練習と仕事との兼ね合いが厳しくて、大きな負担。
- ・ 持ち回りで操法大会へ出場しているため、操法を知らない団員が多い。
- ・ 操法の練習に時間を費やすよりも、実際の火災を想定したような訓練等に時間を費やすほうが良いと思われる。
- ・ 毎年操法大会があり、週5回の練習を行っている分団がある。団員にとって相当な負担になっていると感じる。
- ・ 操法大会は分団内の団結力強化に繋がるが、家族に迷惑をかけることもある。
- ・ ポンプ操法大会の地区大会は、他団との交流やレベルアップにも繋がる。
- ・ 分団持ち回りであったが、何年か前から各分団からの選抜メンバーでチームを編成しており、他の分団と連携ができて良かった。
- ・ ベテランの団員が退団して、若い団員だけになってしまっていて操法に詳しい人がいないので、団員が手探り状態で練習している状態である。
- ・ 新入団員に出場させれば操作が覚えられる。
- ・ 練習場所が無く困っている。
- ・ 雨天の場合の延期と強行の判断が曖昧である。
- ・ 町大会、市大会と要領が違うところがおかしい。
- ・ 採点結果が公表できなくても、悪かったところを教えて欲しい。そうしないと次に繋がらない。



【但馬地区意見交換会風景】

#### ⑭消防団幹部との関係

- ・分団長とは、和気藹々とした関係で、意見も言いやすい。
- ・団長と直接話す機会はないが、地区の幹部とは相談しやすい。
- ・分からないことが多いので、質問することがあったら、しっかり教えてもらえる。
- ・体育会系の分団長なので、分団を盛り上げようとしてもらっており、有り難い。新入団員の勧誘の際も、区長に強気な意見を言って貰える。



【但馬地区意見交換会風景】

### ⑮ 団員報酬について

- ・ 貰える金額よりも使う金額の方が多い。ボランティアとしての認識があるので、報酬については気にしたことが無い。
- ・ お金が欲しくて活動しているわけでは無く、気にしたことは無い。たくさんもらえるなら嬉しいが、現状を不満に思ったことは無い。
- ・ 地区の祭りや操法練習時の飲み物、年末警戒費など、出費が多い。
- ・ 災害時に仕事を途中で止めて出勤した人には報酬を出すなどの対策がとれたらと思う。
- ・ 地区からもらっている金額が少ないように思う。地域によって消防団に充てられる手当の差があるのはおかしい。
- ・ 活動した団員に報酬を出して欲しい。



【東播磨地区意見交換会風景】

## ⑩その他

- ・所属する分団は、所用により定例訓練を欠席する場合も、連絡さえすれば気楽に休めるのでありがたい。一度休んだら行きにくくなるということがないのが良い。
- ・訓練後の親睦も自由解散しやすいよう時間を区切って行うことが重要である。
- ・分団の車庫に待機する場所がなく、水防待機等の団活動に支障をきたしている。同じ分団内でも条件が違う。
- ・被服の支給について、配慮してほしい。入団時のみでは、服の傷みが激しく、サイズが合わなくなってくる団員も少なくない。
- ・配偶者への表彰制度（家族の賞）があるが、近年は該当者に独身者が多い。消防団においても婚活になるような取組が必要だと思う。
- ・学生団員とは授業等の都合により交流があまりないのでLINEによる情報共有を行っている。
- ・Facebookで消防団活動を紹介し、他府県の消防団との交流も行った。
- ・アメリカ式防災教室が非常に良かった。
- ・昼間の出勤人数に不安があるので、自衛消防隊（自治会等）の養成を検討したい。

## 平成25年度若手消防団員意見交換会実施状況

地区名	開催日	開催場所	参加団員数 (人)	階級内訳 (人)		
				部長他	班長	団員
神戸	平成26年2月2日	神戸東急イン	11	0	1	10
阪神	平成26年2月9日	ホテル「ホップイン」アミング	16	2	4	10
東播磨	平成26年2月16日	高砂市生石研修センター	15	4	5	6
中播磨	平成26年1月25日	姫路市防災センター	20	4	7	9
北播磨	平成26年2月14日	北はりま消防本部西脇消防署	18	16	1	1
西播磨	平成26年2月2日	上郡ピュアランド山の里	14	5	6	3
但馬	平成26年1月19日	養父市立八鹿文化会館	14	2	4	8
丹波	平成26年2月23日	丹波市氷上住民センター	15	4	4	7
淡路	平成26年3月4日	淡路広域消防ビル	14	3	1	10
合 計			137	40	33	64

(公財) 兵庫県消防協会

〒650-0011

神戸市中央区下山手通4-16-3

TEL : 078-333-8073

FAX : 078-333-8076

URL <http://www.hyogoshoubou.jp/>